

# 四 半 期 報 告 書

(第220期第2四半期)

東京製綱株式會社



---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

頁

【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
3 【経営上の重要な契約等】 .....	6
第3 【提出会社の状況】 .....	7
1 【株式等の状況】 .....	7
2 【役員の状況】 .....	9
第4 【経理の状況】 .....	10
1 【四半期連結財務諸表】 .....	11
2 【その他】 .....	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	21

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成30年11月14日

**【四半期会計期間】** 第220期第2四半期(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)

**【会社名】** 東京製綱株式会社

**【英訳名】** TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 浅野正也

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

**【電話番号】** 03-6366-7777

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 高橋文明

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

**【電話番号】** 03-6366-7777

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 高橋文明

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第219期 第2四半期 連結累計期間	第220期 第2四半期 連結累計期間	第219期
会計期間		自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高	(百万円)	29,448	29,763	63,537
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	1,059	△14	3,114
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	(百万円)	744	△341	2,523
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,186	△529	3,063
純資産額	(百万円)	26,147	24,631	25,781
総資産額	(百万円)	84,745	85,834	86,306
1株当たり四半期(当期)純利益 又は1株当たり四半期純損失(△)	(円)	46.16	△21.17	156.54
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	28.4	28.7	29.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,708	1,125	4,202
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△1,844	△2,443	△3,475
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	1,301	391	123
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	4,481	3,451	4,352

回次		第219期 第2四半期 連結会計期間	第220期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日	自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日
1株当たり四半期純利益金 又は1株当たり四半期純損失(△)	(円)	25.82	△17.71

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第219期第2四半期連結累計期間、第220期第2四半期連結累計期間及び第219期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### ① 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、相次ぐ自然災害の影響や通商問題の動向などによる懸念は高まりつつも、引き続き好調な企業収益、雇用環境の改善などに支えられ、緩やかな景気拡大基調が続きました。世界経済もまた、米国を中心に緩やかに拡大しておりますが、原油高や米国から発した貿易摩擦の懸念などから、先行きに不透明感が広がる状況となっております。

このような状況のもと、当社グループでは、「国内事業の基盤強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」の3つをキーワードとして平成32年3月期を最終年度とする中期経営計画「TCT-Focus2020」の諸施策を推進しております。

当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、エレベーターロープや道路安全製品の売上が減少いたしました。スチールコード製品の増加や石油関連製品の売上増加により、29,763百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

利益面では、主に国内における太陽光発電向けシリコンウェハー切断用細物ワイヤ（以下、コアワイヤ）の売上減少等により、営業損失は80百万円（前年同期は990百万円の営業利益）、経常損失は14百万円（前年同期は1,059百万円の経常利益）となりました。また、特別損失に災害による損失289百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は341百万円（前年同期は744百万円の純利益）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

##### （鋼索鋼線関連）

エレベーターロープは中国における需要の落ち込み、及び国内における交換需要の落ち着きにより販売数量が減少した他、台風影響による一般鋼索等の出荷遅延などもあり売上利益とも減少いたしました。その結果、当事業の売上高は13,908百万円（前年同期比1.8%減）、セグメント利益（営業利益）は700百万円（前年同期比30.4%減）となりました。

##### （スチールコード関連）

国内におけるタイヤコード並びに中国におけるコアワイヤの販売数量が増加し、当事業の売上高は5,525百万円（前年同期比3.1%増）となりましたが、前期堅調であった国内のコアワイヤの売上減少により、セグメント損失は389百万円（前年同期は50百万円の利益）を計上いたしました。

##### （開発製品関連）

道路安全製品並びにCFCC製品が減少した結果、当事業の売上高は5,376百万円（前年同期比8.2%減）、セグメント損失は846百万円（前年同期は455百万円の損失）となりました。

(不動産関連)

当事業の売上高は605百万円（前年同期比2.5%減）、セグメント利益は150百万円（前年同期比4.6%増）となり、概ね堅調に推移しております。

(その他)

原油価格の上昇に伴い石油製品関連の売上が増加し、当事業の売上高は4,348百万円（前年同期比26.2%増）となり、セグメント利益は産業機械関連の増加により303百万円（前年同期比24.2%増）となりました。

## ②財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、棚卸資産、建設仮勘定が増加したものの、現預金や売掛金、評価替えによる投資有価証券の減少により、前連結会計年度末と比べ471百万円減少の85,834百万円となりました。

負債については、短期借入金や退職給付に係る負債が減少する一方、長期借入金の増加により、前連結会計年度末と比べ677百万円増加の61,203百万円となりました。

純資産については、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上、配当金の支払い等により、前連結会計年度末と比べ1,149百万円減少の24,631百万円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ900百万円減少し、3,451百万円になっております。

営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産が増加したものの売掛債権の減少、減価償却費等により、1,125百万円の収入（前年同期は1,708百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得により、2,443百万円の支出（前年同期は1,844百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金の増加により、391百万円の収入（前年同期は1,301百万円の収入）となりました。

## (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

### ① 基本方針の内容

当社は、当社グループの企業価値と株主共同利益の維持・持続的発展を実現し、株主の皆様へ還元すべき適正な利潤を獲得するためには、長年の事業活動によって培った柔軟な技術力と多様な事業構造、ブランド力、川上・川下の各取引先との強い連携といった当社グループの企業価値・株主共同利益の源泉の維持が不可欠であり、このためには株主の皆様をはじめ、お客様、お取引先、従業員や地域社会といった当社グループのステークホルダーとの適切な関係を維持しつつ、社会の基盤整備への貢献を通じて当社グループの社会的存在意義を高めていく経営が必要であると考えております。



また、株式会社の支配権の移転を伴う当社株式の買付提案がなされた場合に、その買付が当社グループの企業価値・株主共同利益を高めるものかどうかを株主の皆様が適切に判断するためには、事業間のシナジー効果や当社グループの企業価値の源泉への影響を適正に把握する必要があると考えます。

当社取締役会では、以上の要請を実現することが当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方であると考えており、以上の要請を実現することなく当社株式の大量取得行為や買付提案を行う者は、当社の財務および事業の方針の決定を支配するものとして不適切であると考えます。

## ② 基本方針実現のための取り組み

当社は平成27年度からの5年間で「事業基盤の更なる強化」と「成長戦略の着手・実行」の期間と位置付け、将来に亘り成長・社会貢献し続けるための諸施策を展開してまいります。

具体的には、①北米市場やインドネシア市場におけるCFCC事業の推進、②海外におけるインフラ整備需要を捉えた積極的な新規マーケットの開拓、③スチールコード事業の体質転換、④国内インフラ需要の確実な捕捉、⑤成長戦略を支える財務基盤の強化、等に取り組んでまいります。

以上の取り組みを通じて、当社グループでは、中長期的視点に立ち、当社グループの企業価値・株主共同利益の向上を目指してまいります。

## ③ 不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定を支配されることを防止する取組み

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定が基本方針に照らして不適切である者によって支配されることを防止する取組みとして、第208回定時株主総会においてご承認を得て「当社株式の大規模な取得行為への対応策（買収防衛策）」の導入を決議いたしました。その後、第211回定時株主総会、第214回定時株主総会及び第217回定時株主総会において株主の皆様にご承認頂き、買収防衛策を更新いたしております。（以下、更新後の買収防衛策を「現行プラン」といいます。）

現行プランは、当社が発行者である株式の大量買付または公開買付を実施する場合の手続を明確化し、株主の皆様が適切な判断を行えるよう必要かつ十分な情報と時間を確保することや買付者との交渉機会を確保することで企業価値・株主共同利益の維持・向上させることを目的としております。

具体的には、当社株式の発行済株式総数の20%以上となる買付または公開買付を行おうとする者（以下、「大量買付者等」といいます。）には、事前に必要な情報を当社取締役会に提出いただき、当社取締役会が一定の検討期間を設けたうえでこれらの情報に対し意見表明や代替案等の提示、必要に応じて大量買付者等との交渉等を行うこととしており、これらの情報については適宜株主の皆様へ情報提供を行うこととしています。

また、大量買付者等と当社取締役会から提出された情報、当社取締役会の代替案等については、当社経営陣から独立した社外者のみで構成される独立委員会に提供され、独立委員会において調査・検討・審議を行い、その結果を取締役に報告します。

独立委員会では、大量買付者等が現行プランにおいて定められた手続に従うことなく当社株式の大量買付等を行う場合または当社の企業価値・株主共同利益が毀損されるおそれがあると認められる場合は、対抗措置の発動（大量買付者が権利行使できない条件付の株主割当による新株予約権の無償割当）を取締役に報告することとしています。

取締役会では、本必要情報等を検討し、独立委員会の報告を最大限尊重したうえで、本対抗措置を発動することを決定することがあり、その決定内容について速やかに情報開示を行います。

#### ④ 現行プランの合理性

当社取締役会では以下の理由により、現行プランが基本方針に整合し当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであり、かつ当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

##### 1) 買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

現行プランは経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」に定める三原則を完全に充足しております。

##### 2) 株主意思を重視するものであること

現行プランは平成28年6月開催の第217回定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て3年間の有効期限を設定しております。また、有効期限内においても毎年株主総会で選任される取締役を通じて廃止することができる（いわゆるデットハンド型ではないこと）ことから導入・廃止とも株主の皆様の意思が反映されます。

##### 3) 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

現経営陣からは独立した社外取締役、社外監査役や有識者をメンバーとして構成される独立委員会が、現経営陣による恣意的運用がないかどうか監視するとともに対抗措置の発動等について独立委員会の勧告を行うこと、独立委員会の判断の概要を含めて株主の皆様には情報開示することで現行プランが透明性をもって運営される仕組みを構築しております。

##### 4) 合理的な客観的要件の設定

現行プランは対抗措置の具体的発動要件を定めているほか、発動に際しては必ず独立委員会の判断と勧告を経ることであり、現経営陣による恣意的な対抗措置の発動を抑制する仕組みを構築しております。

#### (5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は628百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,268,242	16,268,242	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	16,268,242	16,268,242	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### ① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年9月30日	—	16,268,242	—	1,000	—	250

## (5) 【大株主の状況】

平成30年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	2,429	14.94
新日鐵住金株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号	1,150	7.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	779	4.80
株式会社ハイレックスコーポレーション	兵庫県宝塚市栄町1丁目12番28号	400	2.46
東京ロープ共栄会	東京都中央区日本橋3丁目6-2	379	2.33
RBC ISB S/A DUB NON RESIDENT/TREATY RATE UCITS - CLIENTS ACCOUNT (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	14 PORTE DE FRANCE, ESCH-SUR-ALZETTE, LUXEMBOURG, L-4360 (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	375	2.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	274	1.69
KOREA SECURITIES DEPOSITORY-SHINHAN INVESTMENT (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	34-6, YEOUIDO-DONG, YEONGDEUNGPO-GU, SEOUL, KOREA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	270	1.66
横浜ゴム株式会社	東京都港区新橋5丁目36-11	267	1.64
KSD-NH (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	34-6, YEOUIDO-DONG, YEONGDEUNGPO-GU, SEOUL, KOREA (東京都新宿区新宿6丁目27番30号)	259	1.59
計	—	6,584	40.50

(注) 1. 平成30年5月8日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書(大量保有報告書の変更報告書)において、JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社、ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・ピーエルシー(J.P. Morgan Securities plc)及びジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・エルエルシー(J.P. Morgan Securities LLC)が平成30年4月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における同社の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は平成30年9月30日現在の株主名簿に基づいて記載しております。  
なお、その大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 東京ビルディング	1,185	7.29
ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・ピーエルシー(J.P. Morgan Securities plc)	英国、ロンドン E14 5JP カナリー・ウォーフ、パンク・ストリート25	36	0.22
ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・エルエルシー(J.P. Morgan Securities LLC)	アメリカ合衆国 ニューヨーク州 10179 ニューヨーク市 マディソン・アベニュー383番地	17	0.10
計		1,239	7.62

2. 平成30年9月6日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書(大量保有報告書の変更報告書)において、大和証券投資信託委託株式会社が平成30年8月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における同社の実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況は平成30年9月30日現在の株主名簿に基づいて記載しております。  
なお、その大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
大和証券投資信託委託株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	984	6.05

## (6) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 10,700	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 5,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,184,200	161,842	—
単元未満株式	普通株式 68,342	—	—
発行済株式総数	16,268,242	—	—
総株主の議決権	—	161,842	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式134,300株(議決権の数1,343個)が含まれております。

2. 単元未満株式には、東洋製綱(株)所有の相互保有株式23株及び当社所有の自己株式87株が含まれております。

## ② 【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京製綱株式会社	東京都中央区日本橋 3丁目6番2号	10,700	—	10,700	0.06
(相互保有株式) 東洋製綱株式会社	大阪府貝塚市浦田町175	5,000	—	5,000	0.03
計	—	15,700	—	15,700	0.09

(注) 上記自己名義保有株式数には、役員向け株式交付信託保有の当社株式数(134,300株)を含めておりません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成30年7月1日から平成30年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもってEY新日本有限責任監査法人となりました。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,374	3,474
受取手形及び売掛金	※3 14,311	※3 13,231
商品及び製品	6,939	6,878
仕掛品	4,167	4,341
原材料及び貯蔵品	4,216	4,858
その他	1,346	1,640
貸倒引当金	△19	△17
流動資産合計	35,336	34,406
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,195	7,116
機械装置及び運搬具（純額）	6,985	6,645
土地	18,307	18,305
建設仮勘定	1,070	2,415
その他（純額）	1,507	1,477
有形固定資産合計	35,066	35,959
無形固定資産	626	858
投資その他の資産		
投資有価証券	9,355	8,838
退職給付に係る資産	154	154
繰延税金資産	2,952	2,851
その他	3,218	3,154
貸倒引当金	△407	△390
投資その他の資産合計	15,272	14,608
固定資産合計	50,965	51,426
繰延資産	4	1
資産合計	86,306	85,834

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年 9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 12,143	※3 12,597
短期借入金	14,239	13,350
未払費用	2,672	2,459
賞与引当金	911	930
その他	5,379	5,439
流動負債合計	35,346	34,777
固定負債		
長期借入金	13,918	15,895
再評価に係る繰延税金負債	4,183	4,183
退職給付に係る負債	5,153	4,626
その他	1,923	1,720
固定負債合計	25,178	26,425
負債合計	60,525	61,203
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	684	684
利益剰余金	14,507	13,541
自己株式	△312	△308
株主資本合計	15,878	14,917
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,221	918
土地再評価差額金	9,718	9,718
為替換算調整勘定	149	△116
退職給付に係る調整累計額	△1,187	△806
その他の包括利益累計額合計	9,902	9,714
純資産合計	25,781	24,631
負債純資産合計	86,306	85,834



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
売上高	29,448	29,763
売上原価	23,308	24,361
売上総利益	6,140	5,401
販売費及び一般管理費	※1 5,150	※1 5,481
営業利益又は営業損失(△)	990	△80
営業外収益		
受取利息	12	9
受取配当金	115	140
その他	212	236
営業外収益合計	339	386
営業外費用		
支払利息	135	139
その他	135	180
営業外費用合計	271	320
経常利益又は経常損失(△)	1,059	△14
特別損失		
災害による損失	—	※2 289
その他	—	54
特別損失合計	—	344
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,059	△358
法人税等	304	△17
四半期純利益又は四半期純損失(△)	754	△341
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	744	△341

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	754	△341
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	346	△303
為替換算調整勘定	△55	△201
退職給付に係る調整額	165	381
持分法適用会社に対する持分相当額	△23	△65
その他の包括利益合計	432	△188
四半期包括利益	1,186	△529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,176	△529
非支配株主に係る四半期包括利益	10	—

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,059	△358
減価償却費	998	1,071
賞与引当金の増減額(△は減少)	△33	14
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	7	3
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	40	11
支払利息	135	139
受取利息及び受取配当金	△127	△149
売上債権の増減額(△は増加)	833	1,076
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,071	△831
仕入債務の増減額(△は減少)	240	556
前受金の増減額(△は減少)	354	164
災害による損失	—	289
その他	△339	△526
小計	2,096	1,462
利息及び配当金の受取額	146	181
利息の支払額	△133	△149
災害損失の支払額	—	△38
役員退職慰労金の支払額	△5	△92
法人税等の支払額	△394	△238
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,708	1,125
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	△9	△9
投資有価証券の売却による収入	—	14
貸付けによる支出	△342	△20
貸付金の回収による収入	177	39
有形固定資産の取得による支出	△1,506	△2,149
有形固定資産の売却による収入	17	23
その他	△181	△342
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,844	△2,443
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,072	△2,775
長期借入れによる収入	—	5,300
長期借入金の返済による支出	△988	△1,423
配当金の支払額	△646	△646
自己株式の売却による収入	1	4
自己株式の取得による支出	△2	△1
リース債務の返済による支出	△136	△68
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,301	391
現金及び現金同等物に係る換算差額	69	2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,235	△925
現金及び現金同等物の期首残高	3,144	4,352
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	100	24
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 4,481	※ 3,451

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、重要性が増した東京製綱インターナショナル株式会社及び九州トーコー株式会社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
税金費用の計算 税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
関連会社 江蘇法爾勝纜索有限公司の 借入金に対する債務保証	677百万円 (40百万円)	658百万円 (40百万円)
関連会社 江蘇東網金属製品有限公司の 借入金に対する債務保証	846百万円 (50百万円)	823百万円 (50百万円)

(2) 受取手形の流動化

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
手形債権流動化に伴う遡及義務	704百万円	928百万円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形割引高	297百万円	238百万円

※3 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期時に決済が行われたものとして処理をしております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高から除かれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
受取手形	358百万円	206百万円
支払手形	365百万円	425百万円
受取手形割引高	154百万円	166百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
役員報酬	246百万円	256百万円
従業員給料賞与及び諸手当	1,276百万円	1,274百万円
荷造・運搬費	966百万円	1,050百万円
減価償却費	92百万円	73百万円
賞与引当金繰入額	291百万円	289百万円
退職給付費用	143百万円	160百万円
役員退職慰労引当金繰入額	16百万円	15百万円
役員株式給付引当金繰入額	8百万円	8百万円

※2 災害による損失

当第2四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年9月30日)

災害による損失は、台風21号に関する損失であり、内訳は次のとおりであります。

建物・設備等の原状回復費用	235百万円
棚卸資産の毀損等による損失	25百万円
その他復旧等に係る費用	29百万円
計	289百万円

上記金額には、災害損失引当金繰入額236百万円を含んでおります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
現金及び預金	4,503百万円	3,474百万円
預入期間が3か月超の定期預金	△22百万円	△22百万円
現金及び現金同等物	4,481百万円	3,451百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日	配当金の原資
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	650百万円	40.00円	平成29年 3月31日	平成29年 6月7日	利益剰余金

(注) 平成29年5月12日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たりの配当額	基準日	効力発生日	配当金の原資
平成30年5月11日取締役会	普通株式	650百万円	40.00円	平成30年3月31日	平成30年6月6日	利益剰余金

(注) 平成30年5月11日取締役会決議による配当金の総額には、役員向け株式交付信託が保有する当社株式に対する配当金5百万円が含まれております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計				
売上高									
外部顧客への売上高	14,163	5,361	5,858	620	26,004	3,444	29,448	—	29,448
セグメント間の内部 売上高又は振替高	72	44	3	—	120	358	479	△479	—
計	14,236	5,406	5,861	620	26,124	3,803	29,928	△479	29,448
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,006	50	△455	144	745	244	990	—	990

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業を含んでおります。

当第2四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計	調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	鋼索鋼線 関連	スチール コード 関連	開発製品 関連	不動産 関連	計				
売上高									
外部顧客への売上高	13,908	5,525	5,376	605	25,415	4,348	29,763	—	29,763
セグメント間の内部 売上高又は振替高	99	77	4	—	181	455	637	△637	—
計	14,007	5,603	5,380	605	25,596	4,803	30,400	△637	29,763
セグメント利益又は セグメント損失(△)	700	△389	△846	150	△383	303	△80	—	△80

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、産業機械事業、粉末冶金事業及び石油事業を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失(△)	46.16	△21.17
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(百万円)	744	△341
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)(百万円)	744	△341
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,122	16,122
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年11月14日

東京製綱株式会社  
取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 中 崇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 芝 山 喜 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京製綱株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成30年7月1日から平成30年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京製綱株式会社及び連結子会社の平成30年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



**【表紙】**

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年11月14日

【会社名】 東京製綱株式会社

【英訳名】 TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 浅野正也

【最高財務責任者の役職氏名】 該当なし

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋3丁目6番2号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 浅野 正也は、当社の第220期第2四半期（自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。